

今帰仁城下集落における文化的・歴史的地域資源の再発見と活用



DATA

- 主な連携先・メンバー
沖縄県今帰仁村教育委員会 玉城靖氏／今帰仁城を学ぶ会事務局長 山内直美氏／関西大学大学院文学研究科 齋藤鮎子・中井香月・安田えり
- 活動地域
沖縄県今帰仁村
- 活動期間
2019年度
- 活動資金
地域連携活動に対する補助事業

活動の目的

- 1 地域の歴史的・文化的地域資源を住民自身が認知する
- 2 歴史的・文化的地域資源を活かして地域活性化に繋げる

連携にいたる経緯

前年度にガイドボランティア養成講座の問題点を意見交換したりするなど、今帰仁村教育委員会、今帰仁城を学ぶ会と連携を図ってきた。その過程で、歴史的・文化的地域資源が地域活性化に活用されていないことが問題となり調査、意見交換をすることとなった。

活動内容

学内で3回の予備学習をおこない、文化的・歴史的・地域資源についての理解を深め、事前調査によって現地に複数の文化的・歴史的・地域資源があることを確認した。

現地にて今帰仁歴史文化センター館長でもある玉城靖氏より今泊の文化的景観の講義を受けるとともに、今泊集落の文化的・歴史的資源になりえる事項をワークショップにて共有した。

今泊集落において文化的・歴史的・地域資源を現地調査したほか、聖地でもあるクバの御嶽をいかに地域資源として活用できるかを玉城氏とともに検証。その成果については玉城氏と今帰仁城を学ぶ会、住民との意見交流会で検討した。



文化的資源となりえるフクギ並木



歴史的資源となりえる石積遺構



クバの御嶽の聖地

活動の成果

- 1 地域の文化的・歴史的・地域資源を再発見できた
- 2 住民・行政とワークショップをおこなうことで、文化的・歴史的・地域資源を今後いかに活かすかについて一定の方向性が得られた

今後の課題・目標

- 1 ワークショップを通じてさらに多くの住民に地域資源の認知を促す
- 2 歴史的・文化的・地域資源の具体的な活用を今帰仁城および今泊区でおこなう

教員紹介



■ 文学部 准教授

松井 幸一
Koichi Matsui

専門は歴史地理学・村落地理学。現在は村落がいかに形成され拡大してきたのかを日本・東アジアを対象として研究している。